

松下村塾はもともと吉田松陰(1830-189)の叔父である玉本文之進(1810-1876)の家の近くで開かれた小さな私塾であった。1854 年、松陰は横浜を出発するアメリカの船に潜入して日本を出ようとした後に逮捕された。彼は萩に送還され、監禁されている間、小さな畳の部屋で講義を始めた。松陰の人気の高まるにつれ、より大きな校舎の必要性が高まった。

1857 年 11 月彼の家族の敷地内にある小さな小屋は、1 階建ての校舎に変わった。瓦屋根のたたみ 8 畳（約 14.6 m²）の広さだった。主となる部屋の襖は開かれていたため、神社への訪問者は中を見ることができた。吉田松陰の肖像画が部屋の中央、後方に掛けられている。

改修後にも関わらず、間もなくこの部屋も狭くなりすぎ、四カ月後には松陰とその門弟たちが一緒に塾舎を広げ、小さな部屋を 3 つ追加し 10 畳半（約 19.1 m²）の広さとなった。そして、18.5 畳（約 33.7 m²）の松下村塾は 20 人から 30 人の学生を一度に収容することができた。

松陰の学生たちは明治時代（1868-1912）に日本の歴史の講義をとっていたため、この地域はユネスコの世界遺産に「明治産業革命の現場」として登録されている。